

高齢者施設のあれこれ（7） 「ケアハウス」とは？

高齢者向け施設の中で、「ケアハウス」という類型はあまり頻繁に登場しないので、ほとんど聞いたことがないという方も多いかもしれません。

「ケアハウス」とは「軽費老人ホームC型」とも呼ばれ、60歳以上の高齢者で、自宅での自立した生活に不安を抱えているものの家族による援助が困難な方が、低料金で食事や介護サービスを受けることができる公的施設の一つです。



軽費老人ホームA型とB型には所得制限があるものの、ケアハウス（軽費老人ホームC型）にはありませんので、高収入の方でも入所することが可能です。軽費老人ホームのうちA型とB型については、今後なくなることが決定しているため、「軽費老人ホーム」イコール「ケアハウス」という理解でも問題はないでしょう。

ケアハウスに入居する際には、初期費用として保証金または入居一時金がかかることがあります。ゼロの場合から100万円程度のところまで様々です。毎月の利用料金については、家賃・管理費・サービス提供費・生活費・介護サービス費の合計額で決まりますが、このうちサービス提供費については、自治体の補助金が充てられるため、自己負担額が収入階層区分によって定められています。ほとんどの方の場合、年金収入の範囲内から若干の赤字程度で暮らせるような価格設定になっているといえるでしょう。

こんなにお得なケアハウスですが、終の住み家とすることが難しいというデメリットがあります。最近では、「介護型」と呼ばれ特定施設の認定を受けたケアハウスもありますが、大部分は「一般型」のケアハウスであり、介護が必要になれば外部の介護サービスを利用することとなりますし、ケアハウス内の食堂において自分自身で配膳が出来なくなると、介護サービスの充実した施設への転居を余儀なくされると言われることが多くあります。その際には、家族またはOAGライフサポートのような家族代替の役割を担う事業者の支援が必要不可欠となるでしょう。

ひとり暮らしをつづけていくことは不安だが、年金収入も少ないし預貯金も心もとないから、高額な有料老人ホームには入れないという方であっても、OAGライフサポートのフルパック契約をご利用いただければ、まだお元気なうちは「ケアハウス」に入居し、要介護3以上になった時点でOAGの支援により「特別養護老人ホーム」に転居するという方法を選択することができます。

老後の住み家を考えるときは、高齢者向け施設のそれぞれの特長、どんな心身状態での入居が望ましいか、どんな状態になったら入居継続が難しくなるのかなどをしっかりと理解し、途中で転居が必要になる可能性があるときには、誰がその支援をしてくれるのかということも併せて検討しておかなければなりません。